

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本衛生学会
理事長 柳澤 裕之

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

URL: http://www.nihon-eisei.org/covid19_jsh_statement/

- ① “人生後半期の機能障害の予防と QOL 向上のためのライフコース予防医学を確立する必要性”と“環境医学における予防（診断・創薬） 標的分子の解明の必要性”を国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）に対して予防医学・社会医学系領域の代表学会として提言した（2018年9月3日）。
- ② 日本衛生学会として少子化対策を提言した（2018年12月19日）。
- ③ 日本衛生学会として COVID-19 に関する声明を発信した（2020年12月28日）。

b. 当該領域における国際的な役割

衛生学は、ヒト（宿主）－環境－病因を包括的に理解し、健康維持増進を目指す学問であり、日本衛生学会は、日本だけではなく、国際的にも衛生学の中心となる学術団体です。本学会が取り扱う研究領域は、実験研究、疫学研究を始め、極めて多彩です。ヒトを対象とする疫学研究では、健康事象の原因（要因曝露）と結果（疾病発生）の関係を推定することはできますが、分子生物学的機序を解明することは困難です。この課題解決には、動物や細胞を用いた実験研究が役立ちます。本学会の目的（ミッション）は、実験研究と疫学研究を有機的に連携し、健康に関する様々な課題の解決に役立て、国際社会に貢献することです。

http://www.nihon-eisei.org/about_jsh/purpose/

c. 活動からもたらされる社会的な意義

日本衛生学会は、疫学、分子生物学、中毒学、栄養学、食品衛生学、統計学などの多領域に渡る専門家から構成される。本学会は、2021年1月1日からエキスパート制度を発足させ、これらの人材をホームページに公開して、各領域の専門家が活躍できる体制を整え、健康維持増進を損なう社会的な問題などに対応する活動を始めている。

http://www.nihon-eisei.org/expert_home/

d. 学会運営上留意している点

社会医学系学会との連携だけにとらわれず、絶えず臨床系学会などの他学会との連携に心がけ、より大きな社会活動を担える体制を整えている。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

現在、社会医学系 8 学会、社会医学系 6 団体と連携して、社会医学系専門医協会を結成し、その協会の下で社会医学系専門医の育成に尽力している。